

令和 8 年 萩市議会 9 月定例会

一般質問通告者

質問順序	議席番号	通 告 者	会派・政党	摘 要
1	5	福 場 正		9 月 7 日午前
2	2	烏 田 栄 二		
3	1	榎 谷 紘 司	蒼成会	午後
4	9	岡 崎 隆 志	立志会	
5	1 0	小 林 富	蒼成会	
6	6	安 井 順 子	公明党	
7	8	浅 井 朗 太	立志会	9 月 8 日午前
8	1 5	美 原 喜 大	政風会	
9	1 1	松 浦 誠	公明党	午後
1 0	3	下 田 洋 香	萌和会	
1 1	4	水 津 真 澄	萌和会・参政党	
1 2	1 3	森 田 宗 和	政風会	
1 3	7	山 口 泉	蒼成会	9 月 9 日午前
1 4	1 4	石 飛 孝 道	立志会	
1 5	1 6	森 田 哲 弘	立志会	午後
1 6	1 2	村 谷 幸 治	蒼成会	
1 7	1 7	西 中 忍	立志会	

質問順位	1	質問者	福 場 正 議 員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. インクルーシブなまちづくりの推進および視覚障害者・高齢者の歩行支援について		1. 市内における視覚障害者の移動環境の現状と課題について 2. 歩行支援アプリ・デジタル技術の動向と導入について 3. 公共施設や観光地を中心とした歩行支援・環境整備について 4. 耳で聞くハザードマップの導入について	
2. 窓口受付時間の短縮による働き方改革と持続可能な行政体制の構築について		1. 職員の働き方改革及び時間外労働の現状について 2. 窓口受付時間短縮の必要性と他市の動向について 3. 実証実験導入への意欲について	
3. 萩保健医療圏における医療提供体制について		1. 医療機関の方針決定を受けた今後の協議プロセスについて 2. 病床再編期における二次救急維持と即効性のある現場支援策について 3. 2040年を見据えた地域医療ビジョンと中核病院形成ロードマップの提示について	

質問順位	2	質問者	烏 田 栄 二 議 員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 萩市の地球温暖化対策について		1. 2050年カーボンニュートラル実現に向けた市の決意と総合計画における位置づけについて 2. 事務事業編実行計画の推進と市役所自らの率先実行における具体策について 3. 再生可能エネルギーの導入促進と地域経済・産業への還流について 4. 市民・事業者との協働による脱炭素型のライフスタイル・ごみ減量等の推進について	
2. 市政報告会における市長発言について		1. 市政報告会で「ごみ減量化において無料配布は効果がなかった」旨の発言がありましたが、無料配布廃止、指定袋の値下げがごみ排出量に与え得る影響を現時点、どのように分析しているか伺います。 2. ごみ袋特小の新設とこれまでの指定袋の価格を下げたことは、単に「出しやすさ」を強調するために行ったものなのか、市長の考えをお聞きしたい。 3. 排出抑制（リデュース）と適正排出のバランスをどのように取り、市民に働きかけていくのか。市長の考えをお聞きしたい。 4. 市政報告会でのごみの減量化関連の発言は、日々ごみの減量や分別に努力している市民に誤解や混乱を与えかねないと思うが、市長の認識を伺いたい。	

質問順位	3	質問者	榎 谷 紘 司 議 員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 農業の持続性について		1. 萩市における農業従事者数及び年齢層の推移と予想される懸案事項への対応策について 2. 資材費の価格高騰が続いていますが、営農を続けていく為の支援策について現状と、補助対象外の農機具等への対応について 3. 萩青果市場閉鎖に伴う市内農業者及び青果取り扱い事業者への影響について 4. 新規就農者等が地域コミュニティとの関係構築に対して市からの支援について	
2. 災害時の対応及び避難所等の整備について		1. 避難所に指定されている施設の空調やトイレ等の設備について 2. 小中学校の再編が検討されているが、それに伴う避難所の確保や整備計画への影響について 3. 災害発生時における支援物資の集荷、分配方法について 4. 防災情報等が受け取れるアプリ「はぎなび」について	

質問順位	4	質問者	岡崎隆志議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 物価高騰対策は農業者に行き届いているか		1. 農業省エネ対策事業の支援は行き届いているか 2. 今後の物価高騰対策の考え方は	
2. むつみの菜の花とひまわりをどう守るのか		1. 継続困難となる可能性に対する認識は 2. 持続可能な運営体制づくりへの支援は	
3. 空き家の流通をどう進めるか		1. 各種補助事業の利用実績は 2. 今後の空き家問題への取り組みは	

質問順位	5	質問者	小林 富 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 東浜崎周辺の共有地等の課題解決進展に伴う市の関与と今後の展望について		1. 東浜崎及びその周辺一帯は、菊ヶ浜を一望できる優れたロケーションを有し、伝統的建造物群保存地区も存在する萩市を代表する地域の一つです。 当該エリアは歴史的経緯から入会地としての性質を有し、共有地団体として運用されてきたことや、地図混乱地域であること、県道沿いに細長い国有地が介在することなどから、これまで土地の利活用が進まなかった経緯があります。令和3年12月定例会においても、課題解決に向けた市の関与や協力を求めてまいりました。 現在、最大の課題であった権利関係の集約や適正な管理体制の構築に向けて、具体的な進展が見えつつあります。この広大なエリアの利活用を円滑に進めるためには、行政と民間が密に情報共有を図り、庁内横断的な体制でアイデアの創出や伴走支援を行っていくことが不可欠です。あわせて、国有地の整理や地図混乱地域の解消を進め、観光・産業振興をはじめ地域と協働した土地利活用ビジョンを見据え、一体的なまちづくりに取り組むべきと考えますが、市の見解を伺います。	
2. ご遺族の手続き負担を軽減する「おくやみ窓口（ワンストップ窓口）」の導入と窓口DXの推進について		1. 身近なご家族を亡くされた直後のご遺族は、深い悲しみと心身の疲労の中、短期間で膨大な行政手続きを行わなければなりません。萩市においても高齢化が急速に進展する中、配偶者などご家族がご高齢であるケースや、親族が遠方から駆けつけて限られた時間の中で手続きを行わなければならないケースもあります。 現在、本市が死亡届出時に配布している案内資料を確認すると、国民健康保険、後期高齢者医療、年金、税関係、介護保険、HAGICA、水道、ケーブルテレビやインターネットなどの契約をする総合情報施設など多岐にわたる手続きにおいて、本庁舎の市民総合窓口だけでなく、課税課、別棟にある総合福祉センター（高齢者支援課）、上下水道局など移動して手続きをする必要があります。 近隣の長門市では、大規模な専用窓口を新設することなく、市民課窓口へ各担当課の職員が出向く「職員巡回型」のワンストップ窓口を導入し、本庁における遺族の移動負	

質 問 項 目	質 問 事 項 及 び 要 旨
	担を最小化しています。また、愛知県小牧市等では、事前予約制の導入や、市役所以外の手続きまで網羅した「おくやみハンドブック」の配布、氏名等を自動印字する「書かない窓口（スマート窓口）」と連動させ、市民・職員双方の負担を大幅に軽減していると伺いました。 萩市における上記手続きに関する現状認識と長門市や小牧市の事例を参考とした「おくやみワンストップ窓口」の導入について見解を伺います。また、あわせて、各種手続きにおいて重複した手書きの負担が生じている場合には、本庁および総合事務所・支所・出張所における住民基本台帳と連動した「書かない窓口システム（申請書作成支援）」の導入検討や、市役所以外での手続きも網羅した「おくやみハンドブック」の作成についての見解を伺います。
3. 東萩駅前再整備の進捗と中長期での活用展望や駅構内および周辺を含めた特色や魅力化について	1. 東萩駅前広場は供用開始から40年以上が経過し、老朽化対策と陸の玄関口としての機能強化が重要な課題となっています。これまで議会でも議論が重ねられ、私自身も学生や観光客目線での待合環境改善、駅裏自由通路や駅舎2階活用、デジタルサイネージや副駅名の検討などの提案を行ってまいりました。 市ではアンケートや意見聴取会を経て基本計画を策定され、大まかなゾーニングやコンセプトが示されましたが、詳細を詰めるこれからこそが重要であると考えます。再整備される駅前広場にとどまらず、周辺も含めた特色と魅力ある萩市ならではの開発が期待されるところです。 有識者やJR西日本等との協議を深め、ハード面での駅構内・自由通路、ソフト面での各スペースの具体的運用や愛称としての副駅名、駅舎・周辺の一体的なデザインを検討し、東萩駅が新しく生まれ変わったことを実感できる空間づくりと将来展望を描く必要があります。 大まかな骨格が決まりつつある今、駅構内を含めた一体的開発と中長期的なまちづくりの展開について伺います。 (1) まず、現在の進捗状況と有識者等を交えた特色ある空間づくりの検討について伺います。基本計画の策定から詳細決定に向けた現在の進捗状況と今後の全体スケジュールをお示しいただくとともに、汎用的なコンセプトにとどまらず、有識者検討や高校生・市民のニーズを活か

質 問 項 目	質 問 事 項 及 び 要 旨
	しながら東萩駅の特色や魅力を具体的に引き出す空間づくりや詳細仕様の検討をどのように進めていくのかお聞きします。 (2) 次に、整備対象区域にとどまらない駅構内および周辺を含めた一体的活用について伺います。広場の整備区域だけでなく、駅舎内の待合スペースや観光案内、2階部分の利活用、周辺施設と連携したシームレスな動線・機能の一体的な活用をどのように図っていくのか伺います。また、鉄道利用者や高校生、観光客の利便性・快適性を高め駅全体の魅力向上を図るため、これまで提案してきた「副駅名（愛称）」の導入やPRを含め、JR西日本や民間事業者等とどのような協議・提案を行っているのかお聞きします。 (3) 最後に、持続可能なエリアマネジメントと中長期的なまちづくりビジョンについて伺います。基本計画に示された芝生広場やオープンスペースについて、日常的な憩いやイベント等の賑わいを創出するための持続可能な利活用・維持管理（エリアマネジメント）の運用方針をどのように描いているのか伺います。 あわせて、将来的な駅裏側からのアクセス・乗り入れや自由通路の検討、周辺エリアとの回遊性向上など、10年・20年先を見据えた東萩駅周辺の将来像について市長のビジョンをお聞きします。

質問順位	6	質問者	安井順子 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 萩保健医療圏の医療体制		1. 萩市の二次救急医療体制構築のための取り組みについて 2. 相島のオンライン診療の実際と展望	
2. R S ウイルスワクチン接種の推進		1. 妊婦のワクチン接種状況と啓発方法 2. 高齢者へのワクチン接種費用の助成について	
3. オストメイトと家族への支援		1. オストメイトと家族の相談窓口の設置 2. 災害時支援として避難所等へ個別ストーマ装具を備蓄できる体制整備	

質問順位	7	質問者	浅井 朗 太 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 玉江漁港海岸保全事業について		1. “良好な環境”である西ノ浜一帯をコンクリート護岸にする工事計画についてお尋ねします。 (1) 事業の進捗状況について (2) コンクリート護岸で保全する対象について (3) 計画検討業務について (4) 今後の対応について	
2. 児童クラブについて		1. 児童クラブ運営についてお尋ねします。 (1) 児童・保護者が安心して利用できる運営についての課題と対策について (2) 児童クラブの持続可能な運営のための運営管理体制などの課題と対策について	

質問順位	8	質問者	美原喜大議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 明治維新160年の周年イベントについて		1. 萩市において最大のイベントは、やはり明治維新の周年イベントでありましょう。そこで、次のことを聞きます。 (1) 再来年の明治維新160年イベントの企画をどのように考えておられますか。 (2) 同時に、ふく食解禁140年の年でもあります。どのような関連を持たせるイベント内容としますか。 (3) 本年10月1日～12月31日までが山口県のデスティネーションキャンペーンであり、再来年の明治維新160年祭のPRへ向けて動き始めては如何でしょう。 (4) その他、考えておられる取り組み(計画)を紹介してください。	
2. 白河市との交流について		1. 来年(令和9年)白河市では、「白河藩成立400年」に当たり記念事業を計画されています。(令和9年5月22日)それに伴い、萩市長も案内予定と聞いています。そこで次のことを聞きます。 (1) 白河市との交流について、これまでの経緯を説明してください。 (2) 白河市とは以前より交流があり、コロナ禍でその交流が途絶えていました。今後の交流について、どのように考えておられますか。 (3) 来年、「白河藩成立400年」記念事業では、市民号をを考えておられますか。	
3. リゾート開発について		1. 地元紙(7月24日付)で狐島の記事が載っていましたが、市が把握しているところを説明してください。 (1) リゾート開発の内容(目的)及び工程は。 (2) 萩市にとってどのようなメリットがあるか。 (3) 考えられるデメリットはあるか。	
4. 100条委員会		1. 決算期を迎え、3年間の100条委員会について、市長の所感を聞く。	

質 問 項 目	質 問 事 項 及 び 要 旨
5. 訴訟行為委任事業についての現状を聞く	1. 令和7年4月臨時議会で、予算可決された訴訟行為委任事業について市民の関心度も高いので、次により現状を聞きます。 (1) 時間がかかっているようですが、何が原因ですか。 (2) 今後の状況を説明ください。

質問順位	9	質問者	松 浦 誠 議 員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 災害時の受け入れ支援体制について		1. 人的等受け入れ支援計画・強化について	
2. ふるさと納税を活用した空き家の管理について		1. 返礼品として空き家管理支援の導入について	

質問順位	10	質問者	下田洋香 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 子どもが自分の身体と権利を守るための教育について		1. 性に関する教育、生命（いのち）の安全教育と情報モラル教育の連携について 性に関する教育、文部科学省が推進する「生命（いのち）の安全教育」及び情報モラル教育について、それぞれの取組状況と相互の関連を確認し、これらをつなげることで、子どもが自分の身体と権利を守る力を育む教育を充実させる考えについて問う。 2. 子どもと大人がともに学ぶ機会について 性に関する教育やSNS等をめぐる問題について、児童生徒だけでなく、保護者や地域の大人も学ぶ機会を設けることについて、市の考えを問う。 3. 既存の取組を活用した学びの機会について 性に関する教育について、市民活動推進課・男女共同参画推進室等が実施している既存の取組や専門的知見を活用し、児童生徒や保護者が学ぶ機会を設けることについて、市の考えを問う。 4. SNS等を通じた性に関する問題の把握・共有と未然防止について SNS等を通じた性的なトラブルや性に関する問題について、個人情報等に配慮しながら事例や傾向を把握・共有し、同様の問題を未然に防ぐための教育や啓発に生かす仕組みについて、市の考えを問う。	

質問順位	1 1	質 問 者	水 津 真 澄 議 員
質 問 項 目		質 問 事 項 及 び 要 旨	
1. 防災対策について		1. 避難所の初動タイムライン（段ボールベッド等の設置） 本市は高齢化率が高く、避難所の初動対応に時間を要する可能性がある。 今年の熊本地震では段ボールベッドの設置に5日を要した事例もあり、本市の「搬送・設置の役割分担」「開設後何時間以内に設置完了とする想定」について、現行計画のタイムラインを伺う。 2. 物資の偏在とラストワンマイル（孤立集落・離島対応） 本市は土砂災害警戒区域2, 694箇所、進入路1路線の集落、離島など、災害時に配送網が寸断されるリスクが高い。 物資の過不足を「誰が一元的に把握し」「道路寸断時に誰が再配分を差配するのか」また、国のプッシュ型支援到着まで「本市備蓄のみで何日対応可能か」を伺う。 3. 避難所の自立型インフラ（水・衛生）と通信の確保 水道事業ビジョン中間評価では、配水池耐震化率4.7%、漏水率20.2%と極めて脆弱な状況が示された。 災害時の断水・衛生悪化を防ぐため、指定避難所・離島への「循環式手洗い・シャワーユニット」「小型海水淡水化装置」等の自立型給水設備の優先配備について見解を伺う。 あわせて、陸の孤島発生時の通信途絶に備え、衛星通信の配備状況、孤立集落の情報把握方法、自衛隊・山口県との初動連携フローについて伺う。	
2. 新型コロナワクチン接種事業の科学的検証と、今後のパンデミックにおける本市の情報提供および安全確保について		1. 本市としての健康被害の把握状況 救済制度では新型コロナワクチンによる累計認定9,400件超、死亡認定1,000件超。 全国158自治体の接種記録約5,300万回分の分析では、接種当日・翌日の死亡704人、接種後3～4か月に死亡ピークとの指摘。2024年10月に本市へ提出された陳情（情報提供強化・mRNA/レプリコンワクチン接種中止要望）について、本市としてどのように組織内で共有し、接種体制や情報周知に活かしたのか。 また、本市独自の健康被害・副反応の把握や動向調査の実績があるか伺う。	

質 問 項 目	質 問 事 項 及 び 要 旨
	2. 今後の健康被害の追跡調査の予定 厚労省専門家部会では死亡報告の99%以上が「因果関係評価不能（γ）」とされているが、行政評価委員会では「不足情報の追跡調査を行うべき」と指摘。 自治体が保有する予防接種台帳・住民基本台帳・死亡情報等を匿名化・連結すれば、本市独自でも一定範囲の疫学的検証が可能。 本市として今後、接種後の健康状態の追跡調査や健康被害の把握を主体的に行う予定があるか伺う。 3. 治験が十分でないワクチンを国方針のみで推奨するのか 新技術ワクチンは承認時点で「仮免許状態」に近く、短期間の治験では長期的影響を把握できないと専門家が指摘。 次のパンデミック発生時、治験・安全性検討が十分でない段階のワクチンが国から示された場合、本市はどのような判断基準で接種を進めるのか。 国方針を追従するのか、独自に不確実性も含めた公平な情報提供を行う意思があるか伺う。 4. 泉大津市のような自治体独自の情報提供・支援の可能性 泉大津市では、一律接種券配布ではなく希望者申請方式（選択型方式）を導入し、市民が自ら判断できる環境を整えた。 また、メリット・リスク併記の独自冊子の全戸配布、接種後遺症相談窓口の設置など、主体的な情報提供と支援を行っている。 次のパンデミックが新型コロナではなく未知の感染症であった場合でも、本市として、現場の声を組織全体で拾い上げ、主体的な情報提供・安全確保につなげる仕組みを平時からどのように整えるべきか、市長の見解を伺う。

質問順位	1 2	質 問 者	森 田 宗 和 議 員
質 問 項 目		質 問 事 項 及 び 要 旨	
1. 飼い主のいない猫の不妊、去勢手術費について		1. 萩市では、地域猫活動について、猫の問題ではなく、地域の環境問題として、捉えていると思われるがその主旨を聞きます。 (1) 萩市では、年間猫の不妊、去勢手術は何件ありますか。また、予算の執行状況を聞きます。 (2) 萩市での、猫の餌やり、糞尿の苦情状況を聞きます。 (3) 萩市では、動物の遺棄、虐待行為は何件報告されていますか。 (4) お隣の、長門市、阿武町では、飼い主のいない猫の不妊、去勢手術補助金を個人でも申請でき、Vカット費用も助成している。上限額は、メス1万3千円、オス8千円です。萩市での地域猫の補助助成金額はいくらですか。その他、条件はありますか。 (5) 下関市では、猫の不妊、去勢手術費用は全額市が負担しています。萩市においても、全額市で負担するお考えはないか聞きます。	
2. 笠山の椿群生林の保護について		1. 萩市の観光の始まりを飾る笠山の萩・椿まつりは、戦後、放置された火山岩の中からヤブツバキが仲間とともに、群落を形成し、成長し赤いきれいな花を咲かすようになった。やがて、国定公園に指定され、開発と保護に気を使いながら、市民が楽しみ、観光客を呼ぶ資源として脚光を浴びてきたが、長い年月の中で、少しずつ伐り開き公園化が拡大した。はじめは、小道を、やがて軽トラを入れる管理道になり、人が集まり始めるとベンチを置き、トイレを作り、駐車場を新設した。開発が、破壊につながっているように思える。公園化は、人間の欲で、ヤブツバキのみを見せようと、他の樹木は不要物として、ほとんど伐採された。人間にとってヤブかもしれないが、その林にとっては、必要なものである。例えば、眺望のために木を伐採するのは、愚の骨頂であると思える。林は、お互い助け合い役割をもって生きている。笠山の樹木は、土壌条件の劣悪な環境の下で、北もしくは北西の強風、潮風の条件で生きつづけているのである。海水のかかるハマヒルガオから、低木のハマビワ中高木のヤブツバキ、もっと内陸の高木であるエノ	

質 問 項 目	質 問 事 項 及 び 要 旨
	キ等たくさんの樹木が助け合っている。このまま開発を続けると樺群生林が衰退するのではと、心配しているが、市の今後の展望、見解を聞きます。 (1) 私たちは、美しいもの貴重なものを引き継ぐ責任があります。「箱物」はお金さえ出せば何とかかなりますが、自然はそうはいきません。ヤブツバキのために海岸線に松林を復元しませんか。 (2) マツクイムシ被害跡地の復旧を急ぎ、7年前に虎ヶ崎に植樹し成功した例も聞いています。魚つき保安林は、「山口森林づくり県民税」などを活用して、県も推進していると聞いています。県とともに復元をするべきと思いますが、見解を聞きます。

質問順位	13	質問者	山口 泉 議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 子宮頸がん検診の受診率向上について	1. 子宮頸がんは、20代から発症リスクが高まりますが、早期発見・早期治療により、高い確率で治ることが期待できるがんです。 一方、萩市では、女性の子宮頸がん検診の受診率が9.3%にとどまり、山口県内19市町の中で最も低い状況です。 その背景のひとつに、女性が萩市内で検診を受ける環境に課題があると考えます。 現在、萩市内で女性特有の子宮頸がん検診と乳がん検診の両方を受けようとする、市内の一つの医療機関で済ませることができません。 別々の医療機関をそれぞれ予約する必要があったり、1回で両方の検診を済まそうと思えば市外の病院まで行く必要があります。働いている女性であれば、仕事を複数回、または長時間休まなければならない、子育て中の女性であれば、子どもの予定などを何度も調整することがあります。 こうした負担を軽減するため、萩市では、移動検診車で、乳がん・子宮頸がんの検診を同じ日に受けられる機会を設けています。 しかし、この機会は集団検診に限られ、地域によっては年1回しかなく、実施されていない地域もあります。また、職場で検診を受けられる場合には、市の集団検診を利用できないなど、一定の制約があります。 こうした状況を踏まえると、萩市に女性が身近で検診を受けられる環境を整えることが重要です。 そこで、お尋ねします。 将来的には検診車だけでなく、医療機関に常設の婦人科診療の整備が望まれますが、まずは、移動検診車で乳がん検診と子宮頸がん検診を同じ日に受けられる機会を増やすことや、検診の情報をより分かりやすく周知するなど、萩市に住む女性が検診を受けやすくするための取り組みを進めることはできないか、市の所見を伺います。		
2. イベントの財源確保について	1. 今年も盛大に行われました「萩日本海大花火大会」や「須佐湾大花火大会」、また、各地域で開催されているお祭りなど、萩市の多くのイベントは、これまで市内企業からの協		

質 問 項 目	質 問 事 項 及 び 要 旨
	賛金など、地域の皆様の支えによって開催されています。 しかしながら、近年の物価高や人件費の高騰などにより企業を取り巻く経営環境は厳しく、市内企業の数も減少し、協賛金を確保していくことが年々難しくなっています。 さらに、開催に伴う必要経費も増加しており、今後、イベントの規模縮小や開催そのものが難しくなることが懸念されます。 一方で、全国では、「ふるさと寄附」により多くの財源を確保され、特色ある施策を実施されている自治体も多くあります。 「ふるさと寄附」が年間200億円を超える自治体も複数あり、例えば、宮崎県都城市では宮崎牛、北海道白糠町ではホタテやイクラなど、ブランド力のある食材を返礼品とすることで、多くの寄附を集めています。 萩市においても、返礼品の数を増やすだけでなく、全国的に知名度のある食材を重点商品に定め、戦略的に発信していくことが重要ではないでしょうか。 その候補の一つはトラフグです。県内ふるさと寄附額1位2位の下関市や長門市でも人気の返礼品として選ばれています。 そこで、伺います。 萩市においても、全国的にブランド力のあるトラフグを重点商品として位置付け、商品開発や情報発信に集中的に取り組む、ふるさと寄附額の増加につなげていく考えはないか、市の所見を伺います。
3. 萩市民館大ホール中止に伴う対応について	1. 萩市では、萩市民館の建物調査において安全性に関する指摘を受け、現在、大ホールの使用を中止し、市のホームページで代替施設の案内などを行っています。 しかし、大ホールが使えないことで、これまで行われてきた文化活動やイベントを、同じ規模で開催することが難しくなっていることは事実です。 そこで、市長にお尋ねします。 現在の大ホール使用中止によって、市民の文化活動にどのような変化が生じていると認識されているのか。また、こうした状況の中で、市民の文化活動をどのように支え、今後の活動を促していくお考えなのか、伺います。

質問順位	1 4	質 問 者	石 飛 孝 道 議 員
質 問 項 目		質 問 事 項 及 び 要 旨	
1. 太平洋クロマグロの資源回復を受け、国際会議において大型マグロ漁獲枠25%増、小型マグロ漁獲枠6%減に伴い、萩市における漁業者への影響は		1. 太平洋クロマグロの資源回復を受け、2026年(令和8年)8月に開催された国際会議で、(30k以上)の大型魚の漁獲枠を25%増。一方で、資源確保のために小型マグロ(30k以下)の漁獲枠は6%減で、2027年～2028年の2年間の適用が合意されました。萩市においてマグロ漁を営む漁業者にとっては、厳しい状況になると思いますが、市の見解を尋ねます。	
2. サマーレジャーの一つである、水上バイクを楽しむために、ルールとマナーを周知するための表示物の設置は		1. 水上バイクを利用するには、国家資格である特殊小型船舶操縦士免許が必要です。16才以上であれば2日間で取得できます。近年は、コロナ以降のアウトドアブームに伴い若い世代やファミリー層の免許取得者・利用者が増加傾向であると言われています。一方で、水上バイクの事故は大きな事故につながるおそれがあります。国土交通省や自治体、警察等が水域内でのパトロールや無免許や違反行為の取り締まりを強化しています。萩市におきましても、法令遵守の観点から、水上バイクを利用される方々に対し、ルールとマナーを周知するための表示物等の設置は整っていますか、市の見解を尋ねます。	
3. 障がい者に対する省エネ家電製品購入支援について		1. スーパーエルニーニョ現象で今年の夏は、災害級の酷暑で、命を守る行動と警告を発する程の炎天下が続く毎日です。生命に関わる暑さ対策は、障がい者や生活保護者には、エアコンを購入する資金に乏しい人々に対しても例外なく襲い掛かります。市長の「住んで良し」の施策は、まさに障がい者や生活保護者の最低限度の生活の維持ができるまちを創り上げることではないでしょうか。市長はどのように受け取られましたか。市長の裁量により、どこの自治体にもない、先駆けた「社会的弱者にやさしいまちづくり」を実施され、萩市の施策として、100%の支援事業を実施されるお考えはないか市長の見解を尋ねます。	

質問順位	15	質問者	森田哲弘 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 萩市の高規格道路（山陰道、小郡・萩道路）の現状と今後の見通しについて		1. 国道191号線の現状と山陰道の事業化・全線開通に向けた取組についてお尋ねします。 2. 小郡・萩高規格道路の完成時期の延期についてお尋ねします。	
2. 「住んでよし」の萩市を実現するための課題について		1. 携帯電話の圏外地域についてお尋ねします。 2. 萩市の自治会・町内会の運営と自治会費の格差についてお尋ねします。	

質問順位	16	質問者	村谷幸治 議員
質問項目		質問事項及び要旨	
1. 狐島の扱いについて		1. 先般、地元紙に「狐島のリゾート開発構想」の記事が掲載されていました。このことについて、お伺いします。その狐島に新たに、民間によるリゾート開発の計画があるということですが、萩市は何処まで把握されているのでしょうかお聞きします。	
2. 萩市の業務継続計画（BCP）について		1. 本市における、業務継続計画（BCP）の策定状況について伺います。	
3. 生活道路の法定速度引き下げについて		1. 9月1日より、生活道路（中央線なしの・道幅5.5m未満）での法定速度が、60km/hから30km/hに引き下げられました。本市で管理する市道においては大部分がこれに該当すると思われますが、今後、標識の設置や路面表示または物理的な減速を促す対策等は考えておられるのでしょうかお聞きします。	

質問順位	17	質問者	西 中 忍 議員
質問項目	質問事項及び要旨		
1. 萩市の医療提供体制はどうなっているのか	1. 中核病院形成計画が白紙になって4ヶ月がたちました。 この4ヶ月は、萩市の医療提供体制の将来にとって、大変に重要な4ヶ月だったと私は思っています。 そこで、萩市の医療を守る最高責任者で、萩市民病院の設置者でもある市長は、この4ヶ月の間、萩市の医療提供体制を守るため、自身で具体的にどのような行動を行ったかお尋ねします。		
2. ひきこもるという行動をとる方や経験のある方たちへの支援の現状はどうなっているか	1. 私はこれまで何度も、ひきこもるという行動をとっている方や、ひきこもるという行動をとった経験のある方などへの支援の必要性を一般質問の場で、主張し議論をしてきました。 萩市では、訪問支援や居場所づくり、研修会を実施するなどの取組みを行っていますが、事業を実施しながらその事業効果も検証する必要があると考えています。 そこで、現在実施している事業の現状や効果について、どのような認識を持ち、今後どのような取り組みが必要と考えているかお尋ねします。		
3. 児童・生徒数の減少という危機的状況を逆手に取った大胆な取り組みができないか	1. 萩市では、少子化の影響で、年々児童・生徒数が減少し続けていますが、令和7年の出生数が100人程度になっていることから、今も児童・生徒数が減少し続けることは容易に予測されます。 私は、このような時だからこそ、教育プログラムを大胆に変更し、大切な子ども達に魅力のある教育を提供することが必要だと考えると同時に、このような取り組みを市外の保護者に魅力的だと感じもらうことで、移住のきっかけになるのではないかと考えています。 あわせて、魅力を感じることができる教育プログラムの提供は、萩市の子どもたちの学力向上や人間力や共に生きる力を育むことにも繋がるとも考えています。 そこで、市内外の保護者だけでなく、児童・生徒にも魅力を感じてもらえる、教育プログラムの大胆な変更に取り組む考えがないかお尋ねします。		